

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

**\* 65 cm望遠鏡によるハレー彗星の印画—19851109～19851215—**

1985年～1986年のハレー彗星の写真観測が東京天文台三鷹キャンパスの65 cm屈折望遠鏡で行われた。この観測を行ったのは65 cm望遠鏡で土星の衛星写真を撮って軌道改良を行っていた畑中至純氏であった。畑中氏は、65 cm望遠鏡でハレー彗星の撮影が可能な1985年11月9日から1986年5月9日まで観測可能な限り6か月にわたって写真撮影を行った。それらの写真乾板については、アーカイブ新聞第910号～916号の7号に陽画の形で報告した。畑中氏はこれらの写真を印画紙に焼き付けて展示できる形で保管されていた。これらの印画は写真乾板を密着で焼き付けられたものである。今回、畑中氏からそれらの印画を収集させていただいた。

この号では1985年11月9日～1985年12月15日を掲載する。



19851109



19851112



19861113



19851114



19851123



19851130



19851123-2



19851130-2



19851201



19851202



19851201-2



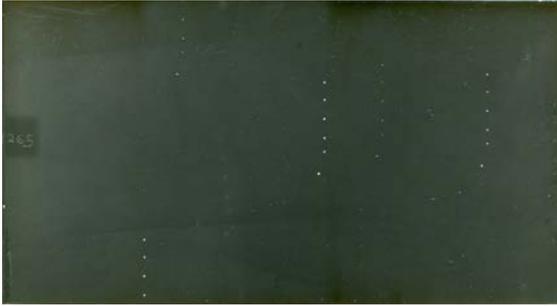
19851202-2



19851203



19851204



19851203-2



19851204-2



19851205



19851212

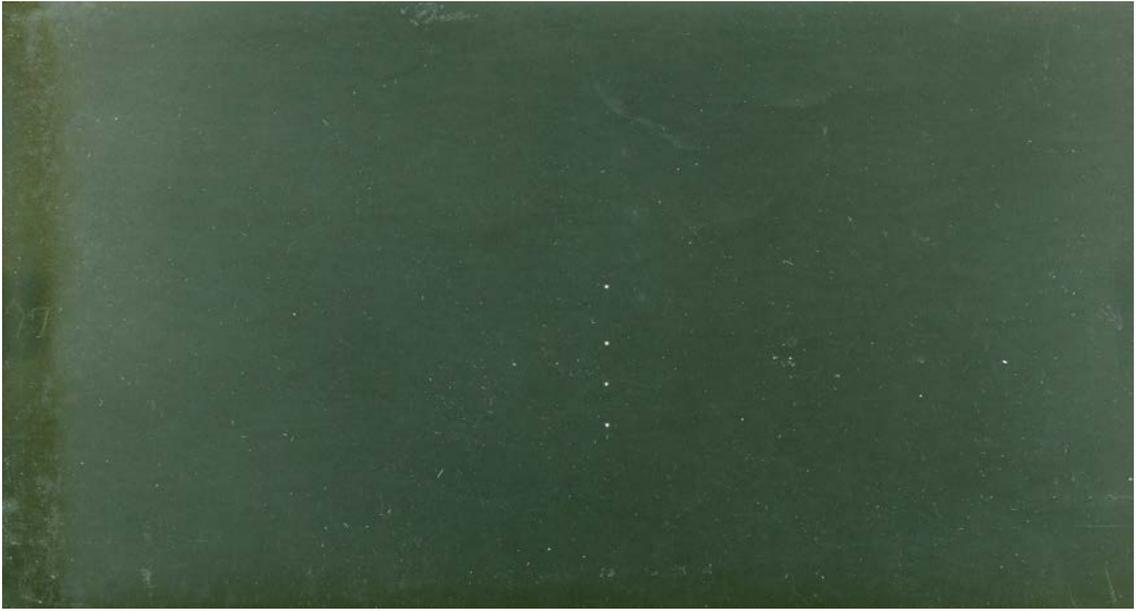


19851205-2



19851212-2

次は、1985年12月10日、乾板をずらしながら4回の露出がなされたハレー彗星の像であるが、隣の恒星は直線上に並んでいるが、ハレー彗星は左にカーブしていることが分かる。これは、ハレー彗星がこの露出時間中にも移動している証拠である。筆者には最初このように、1枚の乾板上に複数回の露出をした理由が呑み込めないでいたが、この印画を拡大してみて、ハレー彗星の移動を撮るための工夫であることが理解できた。1985年12月10日にはこのような露出のものしかなかったもので、これを例にとった。



19851210



19851210-2



19851213



19851215



19851213-2



19851215-2



左の複数回露出でハレー彗星の動きを示す写真は、1985年12月12日のものである。左の恒星が直線上に移動して写っているが、ハレー彗星は左に傾きながら移動していることが分かる。この記事のスペースがこの部分で余裕ができたので例として載せておく

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)